

南島原市立小・中学校適正規模・適正配置在り方検討委員会
第2回検討委員会（会議概要）

日 時		令和7年7月11日（金） 19:00～20:40
場 所		南島原市役所 南有馬庁舎2階 会議室1
出席者	委 員	14名
	市・事務局	教育次長 石川 伸吾 教育総務課長 佐々木 航 学校教育課長（指導主事） 大草 修三 学校教育課学校教育班長（指導主事） 田中 茂樹 学校教育課学校教育班（指導主事） 宮寄 和香 教育総務課教育総務班長 井上 実
欠席委員		なし
会議次第		1 開 会 2 委員長あいさつ 3 前回の振り返り 4 事例紹介 5 グループ討議 6 次回検討委員会の開催について 7 その他 8 閉 会

発言者	発 言 内 容
事 務 局	<開会>
委 員 長	<あいさつ>
委 員 長	<前回の振り返り> 事務局に説明を求める。
事 務 局	「前回の振り返り」について、資料に基づき、以下を説明。 【資料】 ・南島原市適正規模・適正配置在り方検討委員会<第2回>前回の振り返り
委 員 長	<事例紹介> 副委員長に説明を求める。

発言者	発 言 内 容
副 委 員 長	「事例紹介」について、資料に基づき説明。 【資料】 ・南島原の小中学校の適正規模・適正配置を通した教育の新たな魅力創生のためのヒント
委 員 長	<グループ討議> 事務局に説明を求める。
事 務 局	【学識経験者】・【学校関係者】・【保護者】の3グループに分かれて討議する。 「本市の子どもたちにとってより良い環境とは」というテーマで、本市の教育環境の「良い点」・「悪い点」・「理想とする環境」について意見を出していただく。最後に、こういった意見が出たかを、全体場で共有する。
<グループ討議>	
事 務 局	<学識経験者グループ> 【良い点】 ・「山よし、海よし、人よし」という言葉に象徴されるように、自然が豊かで、人が温かい。 ・地域住民が学校や子どもたちを積極的にバックアップしている。 ・教育資源として豊富な歴史文化が存在する。 【悪い点】 ・子どもたちが故郷の素晴らしさに気づいておらず、故郷に対する自信や誇りを持ってない。 ・交通の便が悪い。 ・文化的な刺激が少ない。 【理想とする環境】 ・高校を核にコミュニティスクールを作るなど、幼保小中高が連携し、社会とつながる教育環境の構築。 ・地域独自の教育活動を展開し、人や資金が集まる仕組みを作ることによって地域が活性化すること（人口流出の逆回転）。 ・脳の発育は、組織の大きさに比例するとの説もあり、組織の縮小化は、脳の成長に悪影響を及ぼす可能性がある。そのために、ある程度の大きさの組織を維持していく必要がある。
事 務 局	<学校関係者グループ> 【良い点】 ・自然豊か ・高齢者が学校を支援し、子どもたちと交流することで、温かい関

発言者	発 言 内 容
	係性を築いている。 ・少人数教育で、子どもたちの仲が良い。また、手厚い指導を受けられる。 【悪い点】 ・産業が少ない。 ・交通の便が悪い。 ・校舎の老朽化、体育館の空調が整備されていない。 ・人間関係が固定化されてしまう。 ・（とくに中学校において、）自分の教科以外を指導する免許外指導がある。 【理想とする環境】 ・新しい校舎ができること。そうすることで、人が集まり、産業が増え、学校を通じたまちづくりにつながる。 ・人間関係の固定化を防ぐため、クラス替えが可能な規模の学校であること。 ・高齢者に限らず、様々な人が学校をサポートする環境にあること。
事 務 局	<保護者グループ> 【良い点】 ・少人数教育で、子どもたちへの目が行き届きやすい。教室にもゆとりがある。 ・全体的に子どもの数が減り、係や役割など、一人ひとりの活躍できる場面が増えた。 ・統合した学校では、子どもの人数が増え、活動の幅が広がった。 ・上級生と下級生の縦割り活動が、子どもたちの成長につながっている。 【悪い点】 ・人数が少ないため、教育や部活動等において、活動が制限される。 小・中学校の９年間でクラス替えが無いと、人間関係が固定化される。 【理想とする環境】 ・コミュニティスクールのような、南島原市独自の取り組みがあること。 ・学校での学びが、社会に出てから役立つような力を育む場であること。 ・家庭、学校、地域が協力して子どもを育てる環境であること。
委 員 長	<次回検討委員会の開催について>

発言者	発 言 内 容
	9月26日（金）19：00～
事 務 局	会議内容について、広報誌やホームページで公開をする。また、次回会議に向けて、必要な資料や情報があれば、事前に事務局へ連絡してほしい。
委 員 長	<閉会> 以上で、「南島原市立小・中学校適正規模・適正配置在り方検討委員会 第2回検討委員会」を終了する。